

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2171200385		
法人名	株式会社グランファリスナー		
事業所名	グループホームひだまりの丘		
所在地	岐阜県美濃加茂市西町7丁目101番地2		
自己評価作成日	平成27年3月2日	評価結果市町村受理日	平成27年4月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kajigokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JizyosyoCd=2171200385-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成27年3月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>①体力維持、筋力アップのためラジオ体操、ストレッチ体操など時間をかけて行っています。また、口顎を鍛えるため口の体操を1日2回食前に必ず行います。</p> <p>②天気が良い日は体力に応じた散歩をして季節の変化を感じる支援をしている。</p> <p>③音楽療法を軸にピアノ、ハーモニカ、打楽器等を使いながら歌声の響くグループホームで利用者様は読み聞かせ、編み物、時期、季節の壁紙を作成したり行事等の楽しみを見つけて毎日を穏やかに生活している。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は、開設10年を経ている。職員の離職者が少なく、利用者とは、家族のように気持ちの通い合う関係を築いている。利用者の認知症状が進んでも、趣味や特技を日々の暮らしの中に活かし、過去にピアノが弾けていた人や習字が得意な人、編み物が好きな人などが、職員の努力によって、再びできるようになっており、それを発表する機会もある。管理者・職員は、利用者の権利を守り、自己決定を尊重して、共に歩むように努めている。そして、利用者が毎日が明るく、穏やかな生活ができるよう取り組んでいる。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目: 9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目: 36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目: 11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目: 30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目: 28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日々目のつくところに設置し一日の勤務者の業務分担表に記載して職員が共有、実践できるよう努力している。	理念は、利用者の自己決定を尊重することを含めて7項目ある。職員は、日々、業務分担表を確認し、実践経過を振り返っている。利用者の権利を守り、その人らしく、自立した生活ができるように取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	美濃加茂市の広報に目を通し参加出来るような催しを検討する。いきいきボランティアの方の支援を受けている。	ホームの夏祭りには、案内のチラシを地域に配り、多くの住民を招いている。春には、子ども神輿の休憩所となり、保育園の運動会参加や各種ボランティアの訪問を受けたり、文化センターに利用者の作品を出展するなど、様々な交流を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーターの研修を受講し地域の要請があれば対応したいと考えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこで意見をサービス向上に活かしている	自治会長に参加していただけるようになって地域の様子がわかりやすくなった。	運営推進会議では、事業運営の現状や利用者サービスの取り組みを報告し、意見を交わしている。出席者から介護保険、認定調査等の質問や提案を受け、検討を加えながら、サービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者や包括支援センターと連携を密にし指導を受けている。	市の担当者とは、日頃から連絡を取り合っている。事案によっては、直接出向している。困難事例や地域の要介護者情報、待機者などを相談し、協力関係ができています。地域包括支援センターとも、緊密に連携を取っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	危険防止に心がけ目配り、見守りを積極的に努めている。表情、全身チェックを毎日行う。朝のバイタル、入浴時、おむつ交換の時に注意を払う。	拘束の弊害を学び、日々、確認を行いながら、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。転倒の恐れがある人には、家族の同意を得て、ストレスのないよう一時的な予防策を取り入れている。職員は、きめ細かな配慮と見守りで、抑圧感のないケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を設置し取り組んでいる。		

岐阜県 グループホームひだまりの丘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	自立支援や成年後見人制度の研修を受け支援を必要としている入所者に活用を受けるよう支援した。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に契約に関する説明を丁寧に実施している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見を反映するよう努力している。利用料請求書を発行する際担当職員による生活状況報告等の手紙を渡している。	家族の訪問時や家族会で、話し合いの場を設け、意見や要望を確認している。家族から、排泄用品についてや、職員の言動、対応などで意見があり、速やかにそれらの意見を検討、改善し、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	必要あるときは随時、意見が反映するよう報連相の徹底をしている。	管理者は、会議や日々の業務の中で、職員から意見や提案を聴く機会を設けている。勤務時間の調整や必要な備品の購入などの意見がある。働きやすい職場環境づくりと健康管理などの提案を、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務表の作成時には出来る限り休暇の希望を取り入れている。職員の健康状態、家庭環境も考え、休暇願い、有給休暇、傷病手当金の申請等についても受け入れ実施している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修には積極的に参加し部内研修も実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ネットワーク会議に参加し認知症等に関する講演会、映画会研修にも参加しサービスの質の向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	常に個々のコミュニケーションをとり傾聴を心がけている。不安を取り除くように援助している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の事前面談及び入所時においても家族の要望に耳を傾け安心、安全に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	一番の問題点をつかみ安心できるよう対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	尊厳の精神を持って努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	年6回のひだまりニュースの発行と毎月利用料請求書発行の際には手紙を渡している。面会の際は環境を作り家族と過ごしていただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	日々の利用者様とのコミュニケーションの中で友人との交流を希望された時は家族に協力をお願いする。	職員と共に、近隣の寺社や美容院などに出かけたり、イベントで偶然出会った人の訪問もある。家族の協力を得て、自宅に行ったり、思い出の場所に出かけるなど、馴染みの関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	常に利用者様との関わりを持ち個性を把握しトラブルにならないよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方との関係も必要に応じて対応している。入院された場合でもその先からの相談にも応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の意向を聞いて家に電話をかけたいと言われる方には応じて電話を家族にしている。	本人・家族の情報を下に、生活歴や趣味などを把握している。本人との会話からも、思いや意向を把握し、意欲を引き出しながら、過去に出来ていたことを暮らしの中に取り入れ、その人らしい暮らしができるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	申し込み時、入所時等利用者様と家族から情報を得ている。利用者様との日常会話から得た情報を共有し介護に生かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	引継ぎ時に情報を得て日々の介護に活かしている。利用者様一人一人に合わせたプランで支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケースカンファレンスにあった介護計画になるよう努力している。	毎月のケア会議で、支援経過を検証している。本人・家族の意向、職員の気づきやアイデアを踏まえ、介護計画を作成している。医師や看護師の意見も加えたモニタリングを、随時行い、利用者の自立を支え、生活の質が維持できるように反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録が次の実践への気づき、工夫になるよう検討し改善している。持病、経過観察、食事等記録の必要な利用者様へは個別記録を設けている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	季節の変化を感じていただけるよう行事を計画、催しを実行している。		

岐阜県 グループホームひだまりの丘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	不十分ではあるが地域資源を活用できるよう努力している。夏祭りでは利用者様と職員でエコたわしを作り来場者に購入していただき募金として東北大震災の被災地におくりました。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回定期的に連携医の往診で健康管理を受け更に家族の希望があれば個別にかかりつけ医の治療を受けている。	本人・家族の希望のかかりつけ医を継続している。協力医による往診体制もあり、利用者全員が受診をしている。かかりつけ医への受診は、家族が対応し、医療情報を共有している。急変時は、適切に対処できる体制を整えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	2名いる看護職が情報を把握したとき直ちに連携医もしくはかかりつけ医と連絡をとり対処している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院中の面会、退院相談等、相談員、看護師、担当医からの情報は医療機関との連携を密に行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	特別養護老人ホームへの入所案内、終末期の対応について家族との話し合いは早い段階から進めている。	重度化に向けては、事業所で対応可能な医療行為と、生活ができる範囲までとしている。終末期には、主治医と家族等が話し合い、本人と家族の意向を尊重し、より良い支援ができるよう取り組んでいる。一定の条件の下で、数例の看取り事例もある。	重度化と終末期の対応は、明確になっているが、さらに、家族の理解と同意を得るための、対応手順を整えて明文化し、方針が共有できるように期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	基本的な判断力、知識等は勉強しているが機器(AED等)での訓練が今一步である。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災について話し合いをしているが訓練が不十分である。地域との協力体制が本来の課題だと考えている。災害時に必要な備品、持ち出す物等については年1回確認をしている。	消防署による防災器具の点検が、年に1回ある。自主訓練を重点に、連絡網の確認や避難誘導などを行っている。備蓄品は、敷地内の倉庫に確保しているが、地域との協力体制や火災以外の対応が課題である。	地域との協力体制では、運営推進会議の議題とすることに期待をしたい。また、災害の種別に応じた、想定訓練を行い、利用者の安心・安全対策に期待をしたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	介護記録に特記事項は反対色のボールペンを使用し職員が把握しやすくしている。一人一人の人格を尊重しその人に合った言葉かけ、支援をしている。職員間で情報を確認しながら対応している。	家族の了解を得て、本人が好む名前の呼び方で声かけをし、誇りを損ねない対応をしている。一人ひとりの人格と自己決定を尊重し、できることを引き出しながら、笑顔と思いやりのある態度で接している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	可能な限り自己決定し納得しながら暮らせるよう援助している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	可能な限りその人らしさを尊重し希望を生かしている。必要時には家族の協力も得ている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節はずれの服装等の際は季節を知らせ、身だしなみが整うよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節感を大切にし地産地消を活かした食事等、又扱いがわからない食材を頂いた時は教えてもらいながら共に料理する。一人一人の状態に合わせて全量摂取出来るよう食事作りを工夫している。行事食、干し柿作り等郷土に根付いたもの等は教えてもらいながらつくる。	食事は、調理専門員が作っている。利用者は、野菜の皮むきや食器洗い、テーブル拭きなど、できることを手伝っている。職員も一緒に同じ食事を摂り、美味しさと楽しい時間を共有している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本人の適量を聞き栄養バランスを考慮に入れて支援する。年中、水分量は特にチェックし、飲み易く不足に傾きがないよう援助する。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアに注意し自立していない人には義歯管理も含めてケアしている。		

岐阜県 グループホームひだまりの丘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄支援の担当者を決めて排泄に対しての提案があれば全員で検討し改善に向け努力している。また、一人一人の状態に対応したケアを心がけている。基本はトイレでの排泄が自立できるよう援助する。18名の入居者中6名が布パンツ使用、他はリハビリパンツ+パット使用である。	病院から退院した利用者には、自立に向けて、歩行練習から始め、トイレでの排泄につながるよう支援している。安易に、おむつやポータブルトイレを使わず、昼夜共に、こまめな声かけとトイレ誘導を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	早朝の冷水を飲む。大腸の走行に沿ったマッサージ、散歩等の運動も便秘予防として援助している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴タイムは週3回あるがタイミングの合わなかった人はいつでも入浴できるように援助する。入浴拒否する人には入浴日でない日にも働きかけたり清拭、足浴等に変更して清潔保持への支援をしている。	入浴は、週3回の午後としているが、失禁時や清潔保持等で、柔軟に対応している。拒む人は、シャワー浴や足湯に変え、シャンプーや石鹸は、本人の好みで選び、ゆったりと楽しい入浴を支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体内時計を意識して可能な限り自立した入眠が得られるよう援助している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬が処方された時、薬名と効能、注意点等ミーティングで話し誤薬のないよう努力している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入所時に得た趣味等への情報、日常の会話から役割等の内容を検討し楽しく生活するよう援助している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	可能な限り車椅子、杖、押し車等の必要な利用者様も参加していただけるよう家族、ボランティアの方々にも協力要請して外出を支援している。事業所周辺の散歩を日課とし前庭やテラスでの外気浴を支援している。家族等の協力で外出も実施している。(花見、外食等)	毎日、天候に合わせ、グループ分けをして周辺を散歩している。前庭やテラスでの外気浴も、気分転換になっている。家族や外出ボランティアの協力を得て、地域のイベントや季節の花見、買い物、外食などへの外出を支援している。	

岐阜県 グループホームひだまりの丘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	盗られ妄想のない人には自己管理していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	1日に数回電話をしたい人にもその都度支援している。又、ハガキにて近況を伝えるよう勧めたりもする。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花やタペストリー等で季節を感じられるように工夫している。壁画作りや折り紙でのタペストリー作成等居室、共有空間に季節を感じられる援助をしている。	玄関には、生け花やタペストリーを飾り、リビングには、時計やカレンダー、手づくりの共同作品などがある。季節感や生活感のある共用の間で、それぞれが好きな場所、自分のペースで安心して過ごせるように工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合わない奮闘を感じたりした時はダイナミックに配置換えを行い居場所づくりに注意している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室づくりは個々に好みがあるが家族や本人の希望を活かせるよう支援している。使い慣れたチェストや椅子、場合によっても仏壇等を持参し好みの居室になるよう支援している。	居室の表札は、部屋間違えのないよう、見やすい位置にかけている。馴染みの家具類やカレンダー、時計などを使いやすく、また、見やすく配置をしている。思い出の写真や手作り作品を飾り、居心地よく過ごせる工夫をしてる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	可能な限り施設のものを使用していただくよう説明しハサミ等危険なものは部屋に持ち込まないよう安全に留意している。		